

平成28年

目黒区教育委員会

第12回定例会会議録

(平成28年3月22日開催)

第12回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成28年3月22日

開催場所 教育委員会室

| | | |
|------|---------------|--------|
| 出席委員 | 教育委員会委員長 | 小村 恵子 |
| | 教育委員会委員長職務代理者 | 笹尾 敦夫 |
| | 教育委員会委員 | 中山 ひとみ |
| | 教育委員会委員 | 木村 肇 |
| | 教育委員会教育長 | 尾崎 富雄 |

| | | |
|------|--------------------|--------|
| 出席職員 | 教育次長 | 関根 義孝 |
| | 教育政策課長（学校統合推進課長兼務） | |
| | | 山野井 司 |
| | 学校運営課長 | 佐藤 欣哉 |
| | 学校施設計画課長 | 照井 美奈子 |
| | 教育指導課長 | 佐伯 英徳 |
| | 教職員・教育活動課長 | 濱下 正樹 |
| | めぐろ学校サポートセンター長 | 増田 武 |
| | 統括指導主事 | 細田 真司 |
| | 統括指導主事 | 和田 孝 |
| | 生涯学習課長 | 金元 伸太郎 |
| | 八雲中央図書館長 | 大迫 忠義 |

| | | |
|----|--|--------|
| 書記 | | 鈴木 敏由起 |
| | | 山東 隆博 |

(午前9時30分開会)

- 委員長 第12回目黒区教育委員会定例会を開会します。本日の欠席委員、欠席職員はございません。署名委員は中山委員です。
それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 目黒区教育委員会事務局組織規則の一部改正について(協議事項))

- 説明員 (資料により説明)
○委員長 この件についてご質問等ございますか。
特にないようですのでこの協議を了承します。
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 目黒区教育委員会公印規則の一部改正について(協議事項))

- 説明員 (資料により説明)
○委員長 この件についてご質問等ございますか。
特にないようですのでこの協議を了承します。
次に日程第3を議題とします。

(日程第3 目黒区教育財産管理規則等の一部改正について(協議事項))

- 説明員 (資料により説明)
○委員長 この件についてご質問等ございますか。
特にないようですのでこの協議を了承します。
次に日程第4を議題とします。

(日程第4 目黒区教育委員会非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則の一部改正について(協議事項))

- 説明員 (資料により説明)
○委員長 この件についてご質問等ございますか。
特にないようですのでこの協議を了承します。
次に日程第5を議題とします。

(日程第5 行政不服審査法及び行政不服審査法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律の施行に伴う関係規則の整備に関する規則について(協議事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。
特にないようですのでこの協議を了承します。
次に日程第6を議題とします。

(日程第6 幼稚園教育職員の勤勉手当に関する規則の一部改正について(協議事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。
特にないようですのでこの協議を了承します。
次に日程第7を議題とします。

(日程第7 幼稚園教育職員の初任給、昇格及び昇給等に関する規則の一部改正について(協議事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。
特にないようですのでこの協議を了承します。
次に日程第8を議題とします。

(日程第8 目黒区めぐろ学校サポートセンター処務規則の全部改正について(協議事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。

○委員 このめぐろ学校サポートセンターの長が課長級から係長級に
いうと、ワンランク下がるというイメージです。そうすると職務
内容が軽くなるということではなくて、ただ組織の整備だけなので
しょうか。

○説明員 サポートセンターの事業につきましては、条例で規定されてお
ります。ただし、この管理する組織体制が課長級を長とするもの

から、係長級を長とするものになります。そして、来年度以降につきましては、新しく設置されます教育支援担当課長が課長としてこのサポートセンターを所掌いたしますので、事務といたしましては、教育支援担当課長と、新しく係長級でありますサポートセンター長との両者によりまして運営していくものでございます。

○委員長

その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの協議を了承します。

次に日程第9を議題とします。

(日程第9 平成28年度児童生徒数・学級数の推計について(報告事項))

○説明員

(資料により説明)

○委員長

この件についてご質問等ございますか。

○委員

例えば上目黒小学校でいいますと、推計数よりも実際に入学される児童数が少ない事例があります。ということは、やはり何か違う手を打つ必要があると思います。ここ数年のその推計数と実際に入学した人の推移というのはわかりますでしょうか。

○説明員

ここ数年の傾向のご質疑でございますが、取り急ぎ直近の27年度のこの時期に推計をした数と、実際の27年5月1日の実数との関係でございますが、まず全体で申しますと、昨年度、27年度向けに推計した際には、小学校の通常級の児童数は8,338人という推計です。27年5月1日の実数については、8,473人ということで、100人以上少なく推計をした経緯がございまして、新年度についてもこの数については、今回は8,707人という推計をしておりますが、直ちにこれを下回る見込みはないという認識でございます。

一方、学校ごとの今のご指摘でございますが、上目黒小学校については、昨年度の推計値は14人という推計をしておりますが、実際の27年5月1日現在で16人という結果もございましたので、全体の傾向同様に、今回25人という推計でございますが、これは実際その時期になってみないと正確なことは申せませんが、推計数は一定保ちながら推移はしているという認識でございますので、今回についても期待という表現は適切ではないかもしれませんが、20人を超える児童の確保については可能な限り推移は見ていきたいと存じます。

○委員

実際に増えていただければうれしいと思っておりますが、例

えば数年前ですと、児童が烏森小学校を選択したという実情がありました。今年も聞きますと、隣接の小学校に入学する仲間と一緒に行くんだという声も聞かれるので、ぜひこの実数を増やしていければなと思っております。

○説明員 ただいまのご質疑、ご指摘の点については、今年度、来年度に向けた隣接希望入学制度のご報告をした際、ご指摘の上目黒小学校については1年生でいうと35人、1学級分の「出」の希望があった経緯等もごございます。そのあたりについては、今年度まで隣接を続けてきた中で、これまでの小規模化の課題にあわせまして、そういったかなり大きな数の動き、あるいは隣接を受けられない学校、児童もふえているということで、そういった隣接等の動きに対して新たな課題等も認識してございますので、ご指摘がありました上目黒小学校の傾向も含めて、来年度についてはこの隣接制度そのものについて見直しの必要性の検証を行う考えでございまして、そういった中で来年度以降の児童数、生徒数の確定に向けては、ただいまのご質疑も含めながら制度のあり方等についても調査研究はしてまいります。

○委員 参考資料が10ページについていますけれども、これはあくまでも現在での数値ということですが、小学校の在籍状況について、28年度は0.9ポイント上がる。今の段階で上がる見込みなのですかね。そういう見方でいいのですか。それから、あと中学校は0.4ポイント下がる見込みですが、この辺、何か見解があればお聞きしたいと思います。

○説明員 この10ページの在籍率の見方については、ただいまご指摘をいただきましたとおり、小学校は上がる見込み、中学校は下がる見込みということで、現段階では推計したものでございます。

中学校の下がる傾向については、これは1行目の住民登録者数というところが、次年度の中学生の数でございまして、27年度の4,986人から、来年度は実数として4,931人に減っているという点がある中で、分母自体が減ってはいるのですが、生徒数、これは3行目の2,716人から2,670人というところの推計値が今の段階では下がっている関係で、今の段階ではこういった見通しの中、最低限の2,670人を確保しながら、最終的な確定に向けては推移を見守ってまいりたいと存じます。

○委員 この集計の表記の仕方についてですが、個別に集計しているもので、中学校区ごとの合計値もあわせて表記すれば、統計の資料と

して見やすいと思います。

○説明員 ご指摘につきましては認識をした上で、必要な統計については、これはきちんとお示してまいる考えでございます。

○委員長 その他ご質問等ございますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第10を議題とします。

(日程第10 平成28年度以降の児童生徒数・学級数の推計等について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。

○委員 生徒数が増える予測というのは非常にうれしいことですが、足りなくなる教室数に対して、どういう対応をしていくのか、増設するのか、または隣接校区に事情を話しながら誘導していくのか、今の方向性はどうなっているのでしょうか。

○説明員 実際は5年推計の中でのただいまのご質疑と存じますが、28年度に向けて、あるいは昨年度のこの時期27年度に向けて、実際にその学校によっては学年にばらつきがありますが、教室数が不足した実態もございます。そういったときには工事も含めて、間に合うように新たな整備をしていく。基本的に指定校のお子さんについては、その学校で学んでいただくものでございますので、現段階では可能な限りの工事改修等を含めて教室を確保しているところでございます。

ただ、おっしゃるように、この5年後に向けて推計どおり増えていったときには、これはそういったものが間に合わなくなる可能性も、現段階では可能性としてはございますので、学級数の推移を把握しながら、これは次年度以降に向けて少し中長期的な観点で、教室の確保についてはさまざま検討してまいりたいといった認識はございます。

○委員 まず、この東京都教育人口等推計に基づいて、5年推計をされているわけですがけれども、これは学校ごとに増えたり減ったりするような形になっていきますけれども、地区ごとの人口推計というのがなされているのかどうか。中学校の統合の問題が議論になっておりますので、学級数とか生徒数の問題というのは微妙な問題がいろいろ出てくるのではないかと思います。

○説明員 各自治体ごとに、4月1日現在で年齢ごとの集計、住民票における子どもの数等、こういったものを全て持っていますので、これを都に基本として示した上で、東京都で年度ごとの各学校の増減を、都の考え方として一定の比率にした上で、その人口から比率を掛け合わせながら、東京都として数字を決めていく、こういった仕組みでございまして、区としては人口の資料を示した上で、都として一定の考え方のもと推計をしているというものでございます。

その上で各学校ごと、地区ごと、区市ごと、自治体ごとというものを示して、東京都全体のものについては区・市ごとに、都のホームページで公表もされております。

現段階ではこの5年推計というものは、東京都の推計しか私どもは持ってございませんので、これは今後のご指摘のような取り組みについての資料として、これはまた東京都教育委員会と連携をした上で、どういった取り扱いをしていくかどうか、またそういった説明についてもきちんとしてした上で、どう取り扱うかについては、またご意見も踏まえた上で検討してまいります。

○委員 今回の数字については、東京都の教育人口推計によるものですので、これはこれとして受けとめるべきだと思いますけれども、問題は、小学校の児童数の増が中学校の生徒数の増にこの後、在籍率が変わらない限り33年度以降はふえていくことになると思います。ただ、それはかなり先の話になるのですけれども、1つは東京都の人口推計で、ここまでしか中学校については推計できないのか、あるいは小学校の推計値を類推適用して、その方法で伸ばせるかどうか1つと、それから、区の中にはいろいろな計画があって、例えば目黒区子ども総合計画の人口推計もあり、あるいは目黒区廃棄物の減量推進計画等々による人口推計と、いろいろ人口推計があるわけですが、基本的なところでは、まち・ひと・しごと総合戦略で案1から案4までの人口推計がされています。

ですから、まち・ひと・しごと総合戦略の人口ビジョンもつくっていますから、その案2、案3あたりを両方ですね。これから中学校がどうなっていくのか、小学校がどうなっていくのか、在籍率が変わらないということを前提とした場合に、どういう数字になるのかというのを、やはり基本的な今後の検討数値として押さえておく必要があるかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

か。

○説明員 　いづれにしても、これは東京都として、先ほどのご説明のとおり、5年間に区切って毎年度行っている推計でございまして、方法等については詳細な報告書もあわせて公表されており、計算式等もある中では、2点目の必要性も含めて、区として、今後の小・中学生の動向について、どのぐらいの期間必要であるかどうか、その期間も含めた上で詳細が示されている中で、そういったものを使ってさらに伸ばしていけるのかどうか、こういったところについてはご質疑を重々踏まえまして、調査研究をさせていただきたいと存じます。

○説明員 　今後の区立中学校の統合に向けた生徒数の試算でございまして、けれども、実際、今までは都の推計を基本的には用いていまして、そこにわかる範囲で区で独自に推計したもの、あるいは数値として出てくるもの、これを加味したりしながら試算をしております。今般の人口ビジョンの中でも、合計特殊出生率の想定などから、幾つかのパターンが示されていますし、各種の計画でも恐らくそれを基本に改めて試算をし直している部分もあろうかと思っておりますので、区の全体の動きを十分に踏まえまして、必要な試算については行っていきたいと考えてございます。

○委員長 　その他ご質問等ございますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第11を議題とします。

(日程第11 平成27年度学校評価における四者による学校評価アンケートの実施結果について(報告事項))

○説明員 　(資料により説明)

○委員長 　この件についてご質問等ございますか。

○委員 　この児童のアンケートは、学校で配布をして回収するということだと思いますが、保護者とその地域の方の回収率というものは把握されているのかということと、以前に、特に地域の回収が低いところと高いところがあつて、評価がばらついたという記憶があるのですけれども、今はどのような方法をされているのか、何か改善があつたのでしょうか。

○説明員 　児童・生徒については担任が配って、記入させて、回収しておりますので、ほぼ100%に近い数で回収をしております。保護

者につきましても児童・生徒を通じて、保護者に渡して、できるだけ回答いただくようにしております。ただ、回収率については、学校によって多少の差がございます。学校としてもできるだけ数多くの保護者の方のご意見をいただきたいということで、回収率を高めるような形で、保護者会ですとか、そういったところで声かけをしたり、実際、学校によってはその場で書いていただく取り組みをしていると聞いております。

それから、地域につきましても、行事のときに学校評価を配りまして、随時、運動会ですとか学習発表会等々で学校評価をしていただいて、回収率を高めるような取り組みをいたしたわけですが、その時期その時期での評価にとどまり、それをそのまま学校評価として使えるかということで、なかなか難しい部分があって、改めて以前のような形に今年度は戻しております。実際、先ほど地域の数として、評価として高い、低いということで傾向を申し上げましたが、実は数としてはかなり少ないわけでありまして、一人二人の数によって評価の高い、低いが出てしまう。当然地域、住区センターであるとか町会に直接お持ちをしたり、ご協力をいただきながら回収に努めているところでございます。もちろん、できるだけ数多く回収することで、より学校に対しての適正な評価ということになりますので、今後もより一層回収率を高める具体的な取り組みをするように、学校に指導してまいりたいと考えております。

○委員 設問11についてお尋ねしたいと思います。設問11は、小学校も中学校も、保護者、先生方というのは割と厳しい評価をしていて、児童・生徒はおおむね良好な評価をしている。この差というのは、どう判断したらよいのでしょうか。

○説明員 これはあくまで区全体を合計した平均でございます。実際固定的な評価について、学校ごとで見ますと、ある学校では昨年度、例えば保護者の数値が69.4%だったのが今年度88.6%ということで、肯定的評価がかなり上がっている。ところが、それが変わらずにいるところとか、学校によっては両方とも、昨年も今年も95%を超える値になっているところ、それから、学校によっては70%程度で推移しているところがあります。こちらとしては各学校のどの学年が今どういう状態なのかということをおおむね把握してございますので、その学校も、当然低学年、高学年という形で分かれていて、やはり低学年と高学年によって差が

あります。それぞれの学校ごとの数値、それから、その学校の中で
の学年の状況と、かなり細かく見ていかないと、全体的な、先
ほど申し上げた傾向がございまして、当然各学校は今回もらった
評価を踏まえて、具体的な授業改善について、改めてこういった
形で取り組むかといったところで、来年度の教育課程の中に位置
づけるということでございます。これについては新年度の各校長
のほうからの学校経営のプレゼンテーションの中で、授業規律を
含めた昨年度の学校評価の中ではこういった点がやはり課題であ
るといったところが、例年プレゼンされますので、そういった部
分でぜひご意見をお聞きいただいて、ご質問、ご意見等いただ
ければと存じます。

○委員 大変ご苦労されてまとめられたという点については評価します。
昨年も議論があったところでありまして、教職員の母数で
すけれども、統計学上の回収率との関係で、これは並列評価する
のはなかなか統計学上難しいとは思いますが、例えば八
雲小学校の11番で見ると、設問11で教職員のところについて
は26年度の91.7%から27年度は38.9%で、52.8
ポイントのマイナスになっているのですけれども、恐らくこれは
推察するところでは、回答した教職員の母数の問題とか、回答し
た職員とか、たまたま何らかの要因があってそういうものが反映
されているのだと思いますけれども、教職員の数というのは大体
把握されているのでしょうか。回答した教職員の数です。

○説明員 各学校の教職員の数については把握しております。

○委員 すみません、質問が悪かったです。そのうちの回収率が、昨年
の説明ですと、教職員と保護者の理解度というのが、教職員は高
いけれども保護者はやや低い傾向にありますねという質問に対し
て、教職員は回答した職員の数が一桁台だということもあって、
そういう差が出ているという答弁をたしかいただいたと思うので
すけれども、その職員数のうちどれぐらいの割合が回答してい
るかということ、把握していれば結構なのですけれども、その
辺の基礎データがあるのかどうか、お伺いしたいと思います。

○説明員 先ほどの地域、それから保護者の回収率のお尋ねについてと同
様に、具体的にその数については現在手元にはございませんので、
後ほど確認し、ご提示申し上げたいと存じます。

○委員 この評価の結果の公表の仕方なのですが、1ページの一番下に、
目黒区立学校全体の結果を教育委員会ホームページにて公表とな

っておりますけれども、これは実際は各学校のホームページに載せているところもあれば載せていないところもあると昨年は思ったのですけれども、その公表の仕方はどうなのでしょう。

○説明員

区全体のこと、先ほどの説明した内容については、区のホームページに載せます。ただ、各学校の結果については学校のホームページに載せる等については各学校の判断に任せておきまして、ホームページではなくて、学校だより等にそれを載せている学校もあれば、そこはさまざま学校の判断に任せているところです。ガイドラインの中には学校評価のまとめということで評価項目、それから、その結果、次年度の教育課程の改善等について、資料44ページのシートの例のように、学校評価まとめということで、数値ではなくて、各学校全てホームページ等には掲載すること、これは意思統一されております。しかし、数字については委員ご指摘のとおり、学校によってはホームページに載せているところ、あるいは学校だよりに載せてそれを配っているところ、そこはまちまちでございます。統一するかどうかについて、昨年度もご意見をいただいたわけですけれども、今のところ引き続き検討課題になっております。

○委員

検討課題にさせていただいているのであれば、また来年同じ評価が出てくるわけですので、それなりの進歩といいますか、改善されたというところが見られるような形でぜひ総括をしていただきたいと思っております。

保護者、地域の方々の評価にばらつきがあるとか、そういうのは皆さんの情報のとり方もかなり影響していると思っております。ホームページを見て、ある程度正確に評価しようとしている方と、たまたま道で出会った生徒たちを見て評価する、いろいろな形があると思っておりますので、その辺がある程度読み取れるような形に整理していければ確実な改善が図れるのではないかと思います。

○説明員

先ほど申し上げた学校評価のガイドライン、44ページにあります学校評価のまとめ、これをかなりてこ入れをして、今年度の重点項目をしっかりと明記をし、その上で評価課題、成果指標等も各学校で考えさせて、結果として成果と課題、学校評価委員の意見等々、かなりこの部分の内容の充実度を今回図ったところでありました。ただ、確かに数値を載せる、載せないについては、実はやはり教育課程委員会の中でも数字がひとり歩きをしてしまう。また、学校によってその母数が少ない中での一人二人による大き

な違いが生じてしまうというところ、そこについてもさまざまな議論がありまして、なかなか結論は出ませんでした。まずは当面この学校評価のまとめをきちんと、よりわかりやすく充実したものにしようということで、教育課程委員会の中で検討を続け、今回この形に至ったところであります。

まとめは、まだまだ改善すべきところがございますので、それについてはより一層工夫をしてみたいと存じます。

なお、数値については申し上げたように、さまざまな意見がありますので、どういった形でその情報を公開するかという点については、引き続き委員のご意見等を踏まえながら、検討課題を検討してみたいと考えております。

○委員長

その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

次に日程第12を議題とします。

(日程第12 子ども教室実施小学校区の拡大について(報告事項))

○説明員

(資料により説明)

○委員長

この件についてご質問等ございますか。

○委員

2団体増やしていただいたということについては、大変敬意を表したいと思えます。全ての取り組みはPTA等が今、中心になっているわけですけれども、原町小学校区において、初めて「おやじの会」というのができたのですけれども、これについて経緯がわかれば教えていただきたいと思えます。

○説明員

原町小学校区のチャレンジ教室でございますけれども、働きかけをする際に、PTA会長を通じまして働きかけをしました。そのときに、原町小学校区でこの「おやじの会」が盛んに活動しておりまして、地域のお祭りですとか、そういったところで子どもたちにさまざまな体験をさせるなどの活動をしているということで、今回学校で子ども教室を開始するに当たり、そういった既存の「おやじの会」のメンバーにかかわっていただき、子どもたちにさまざまな経験をさせたいというところから今回新規に加わったという経緯がございます。

○委員

この原町小学校の校長室に「おやじの会」の活動の写真とかいろいろ出ている、本当にPTAと一体になって活動しているので、すごく感心しました。

○委員 主な構成員の中に、碑小学校は住区住民会議等ということで入っているのですけれども、原町小学校は「おやじの会」になっていまして、住民会議の文言がないということと、それから、裏面の既に実行されている13の団体でも住民会議の名前が載っていないのが幾つかあるのですけれども、記載していないということは住民会議は入っていないということでよろしいのですか。

○説明員 構成員につきましては、こちらに記載のとおりでございまして、各団体、平成19年度から始めてきた中で、住区住民会議で活動されている方が入って始めたところ、そうでないところ、さまざまございます。あとは、住区の役員もやっているけれども、ほかの構成員もやっている。そういった二重に入っている方もいらっしゃいますので、そちらはある程度整理はさせていただいていますけれども、そもそもの各実施団体のスタートの状況で構成員は変わってくるものではございますけれども、子どもたちにさまざまな活動をさせたい、体験をさせたいという思いの強い方が構成員として入っていただいていると認識をしております。

○委員長 その他ご質問等ございますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第13を議題とします。

(日程第13 平成27年度教員研修の実施状況及び平成28年度教員研修計画(案)について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。

○委員 評価が3.0未満だった項目というのは何ですか。

○説明員 特に評価が低かったのは、研修の運営が適切だったかという項目につきまして、1から4の評価のうちの最低の1が2人ございました。

○委員 それは何の研修ですか。

○説明員 社会的・職業的自立に向けた研修会として、大学の名誉教授をお迎えし、行っておりまして、本来ならば、その内容につきましてには十分に参加されます研修生の方々に理解いただくような形で構成すべきところではございましたけれども、研修の打ち合わせの中で内容が詰め切れなかったところがございまして、結果的に研修生の方にご迷惑をおかけしまして大変申しわけなかったと思っ

ております。今後の反省材料といたしたいと存じます。

- 委員 それは今年も含まれているのでしょうか。
- 説明員 こちらの研修につきましては、本年度は、10年経験者研修の中で行っていこうと考えております。
- 委員 それに対して事前に皆さんに資料配布して、ある程度知識を得ていただいて対応するということになっていきますでしょうか。
- 説明員 今回の評価の低かった社会的・職業的自立に向けた研修会につきましては、当日の資料配布という形で行っておりますが、例えば演習の時間がもう少し欲しかったですとか、そういった内容の中で工夫できるものと認識しておりますので、そのような形で改善に向けて取り組んでまいりたいと考えております。
- 委員 今年はず3.0未満ということはないと考えてよろしいですね。研修生の大事な時間です。
- 説明員 ご指摘いただきました点につきまして、それらを踏まえまして研修生の方々に、より参加してよかったと思われるような研修を実現できるよう取り組んでまいりたいと考えております。
- 委員 学校マネジメント講座が出席3人だったことに対して、この出席した3人の評価はどうだったのでしょうか。悪くて3人だったのか、内容がよくて3人だったのか。これから、次年度からの対応が違ってくると思います。
- 説明員 学校マネジメント講座につきましては、研修アンケートは特にとってごさいません。内容につきましては、特色ある学校づくりですとか、教育委員会の組織と役割とサービス事故防止、危機管理と教育委員会の施策等、また校内研修等により構成されておりました、学校の中で管理職として、みずからの進路を決めていこうというきっかけとなるようなもので構成されてごさいます。ですので、よりそのような特色ある講座として運営しておりますことを、学校長に周知するなどいたしまして募っていきたいと考えてごさいます。
- 説明員 若干補足をさせていただきます。
- こちらの学校マネジメント講座でごさいますけれども、こちらは東京都全体で有能な管理職を発掘するというプログラムを平成25年度から行っておりました、次世代を担う管理職になる人から、ならせたい人へということで行っておりました、力のある教員をこのプログラム上の仕組みに乗せて、将来、管理職にしていこうという中で取り組みをしているものでごさいます。将来の管

理職、B選考ということを目指すプログラムで、有能な教員をできるだけたくさん参加させたいということで、取り組みを学校サポートセンターとともに行っているところですがけれども、なかなか難しい状況もあるということで、実績の数というところでは2人、3人というようなところで推移をしている、そういった状況でございます。

○委員 参加者数は載っていますけれども、その職層の研修に関しては、今の学校マネジメント講座の対象者ですとか、もともとの対象者数とこの参加者数というのは、ほぼ対象の方が100%これを受けられているのかとかがわからないので、まず対象になる方が何名で、そのうち何名がそれぞれの職層の研修を受けているのかというの、どこかに書かれているとわかりやすいかなと思います。

○説明員 今のご提案いただきました点については重要なものと認識してございますので、今後、次年度以降の資料の作成におきましては十分配慮いたしたいと存じます。

○委員 今日ご報告いただいた27年度の実施状況と、それから28年度の研修計画なのですけれども、今後、議会報告等、何かそういう予定があるのかどうかの説明がなかったのですけれども、その点はいかがでしょうか。

○説明員 本件につきましては、議会報告の予定はございません。

○委員 資料のつくり方として、基本的にPDCAサイクルというのは、この委員会でも何度も話が出てきていますよね。プランがあって、実施してみて、評価して、次の年度に行く。27年度の研修において、どういう成果があって、どういう課題が見えてきて、それで次に28年度に重点を置く研修がこういう研修なのですよということを見せていかないと、単に数字だけを羅列してその説明を受けても、どこに課題があって、どこに今後の展望が見えるのかというのがよくわからないので、資料のつくり方は来年度検討していただきたいと思います。

○委員 教育委員会に報告するときにはきちっとPDCAサイクルの評価を、サイクルの概念を取り入れた報告をしてもらわないと、教職員がどう育ったかというのがわからないので、その辺はきちっと整理していただきたいと思います。

細かいところになりますけれども、4段階評価の指標を口頭で説明していましたがけれども、それは資料のどこかに記載していないといけないと思います。次年度に向けてきちっと立て直しても

raitai to omoimasu.

基本的に保護者、あるいは子どもが一番学校に望んでいる、特に保護者の一番要望が高いのは、教職員の授業力の向上です。そういう要望に、期待に応じていくために、目黒区としてどういう教職員像を目指しているのかという、基本理念がここから見えてきません。目黒区としての教職員の人材育成基本方針みたいな、そういう理念的なもの、日常の業務を通じたOJTとか、自己啓発とか、有機的に連携されて初めて教職員は育っていくわけで、その辺のところは1回整理しないと、東京都の職員の研修体系がどうなっていて、区の研修体系がこうなっていて、日常の業務を通じてこういう指導をしていて、自己啓発してこういうものを行っている。そういう中で目黒区の教職員についてどう育成していくんだという、そういう一つ筋が通ったものがないと、この真ん中の区教委の研修だけ見ても余り意味がないというか、全体像がわからない。教職員が育っていくその過程というのがよく見えてこない。そういったものについては次年度以降、検討してもらいたと思います。

東京都の職員研修案内を拝見させてもらいましたけれども、その中には少なくとも今申し上げたようなことは記述はされているわけで、それなしにして、その研修案内もないのかなというふうに思いますけれども、それは次年度の課題として検討していただきたいと思います。

- 委員長 その他ご質問等ございますか。
 特にないようですのでこの報告を受けました。
 次に日程第14を議題とします。

(日程第14 インフルエンザによる学級閉鎖の状況について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
○委員長 この件についてご質問等ございますか。
 特にないようですのでこの報告を受けました。
 次に日程第15を議題とします。

(日程第15 めぐる学校教育プランの主な推進事業に関する進捗状況(平成27年度)について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員 これだけの資料を取りまとめられたことに、本当に敬意を表したいと思います。すばらしい資料に仕上がっているのではないかと思います。その達成状況等が各課題ごとにきちんと整理されているのは非常によろしいのですけれども、例えば先ほどの継続・拡大・縮小というような形で今後の方向性を評価されたものについて、その文章の中を読んでいけば、その理由というのは読み取れる部分もあるのだらうとは思いますが、やはりそれぞれの担当課の感じたこと、これが素直に表現されているのだらうと思いがたは、27年度からの取り組みを継続して書かれているということで、その辺が非常に読みやすくなっている。それをさらにもっと多くの方々に読んでもらえるようにするには、やはりその取り組みの中での具体的な課題です。例えば、表現の中で周知徹底を図っていくとか、改善していくというような表現がありますけれども、これをもう少し具体的にしたらいいと思います。例えば、周知・徹底というのが27年度で10事業あった。当然28年度ではそれが15事業ぐらいになっていなければいけないというような形で、少し数字で表現できるようなものがあると、とてもわかりやすくなると思います。
- 説明員 今回の調査の項目ですけれども、まず、達成状況というものの自体は今までなかったものを新たに追加をいたしました。それから、今後の方向性というのも、今までですと25年度から28年度がその継続なのかどうなのかということで、策定した段階のものを掲げていましたけれども、これも26年度分の報告をしたときに、その継続とか拡大というのは一体どういう基準なんだといったご意見もいただきました。それらも踏まえまして、今回新たに達成状況の基準ですとか、判断基準ですとか、それから、改定の時期にも当たるということで、今後の方向性、これも判断基準ということで示させていただきました。
- まだ浸透していない部分もあろうかと思いがたは、調査票も工夫をしまして調査をいたしました。まだまだ実際にまとめてみますと評価のぶれといいますか、誤差があるかなという部分も感じますし、改善も必要かなという部分もございがたは。そういった中ですが、委員がおっしゃいますように、こういう形で調査をするのであれば、それがわかりやすい形で、我々自身にとつ

ても当然わかりやすい形がいいと思いますので、ご意見も参考にしていきたいと思います。改めまして27年度の点検・評価も行いますので、それとのかかわりも考えながら、改善できるものは改善しながら進めていきたいと考えてございます。

○委員 本当にわかりやすい資料をつくっていただいております。15ページの、今回休止される健康教育の推進のことなのですが、小学校、中学校のときに体質改善、生活習慣、本当の意味で身につける、是正していくということは大事ですが、学校保健委員会でしたか、それが実際に開かれているのは年に1、2回であるという中で、しかも誰がその該当児童を指導していくか、それも難しい問題なので、本当にそういう面が整備されたら、これは子どもの将来を本当に左右するので、できたら続けていただきたいと思っています。今回は休止でもやむを得ない。いずれ充実した形で復活していただきたいと思っています。

○説明員 ご指摘の学校保健委員会との関係も含めて、この15ページからの休止につきましては、経緯等もございまして、できるだけ簡潔に申しますと、めぐろ学校サポートセンターと学校運営課で所属を分けて、学校健康トレーナーの取り組み、それから生活習慣改善プログラムの取り組みを別々の課で実施をしていたところ、これは課も分かれている中で、こういった健康課題のあるお子さんの個人情報観点もあって、一定の情報共有にも限界があり、共有はして取り組んでおりましたが、私ども2年計画で、まずその組織を一本化し、学校運営課のほうに健康トレーナーを所属配置がえをしました。その中で、ただ、ここに書いてある申し込み数が一定なかなか伸びないという、達成状況Cという、これを発展的に解決していくに当たって、この事業を統合して区の職員としての健康トレーナー、今ご指摘がありました、この者がより養護教諭と学校医と連携してやっていけるようにという意味での改善を含めた、表現としてはそのプログラム自体は休止しますが、中身については学校健康トレーナーが継承した上で達成状況を上げていきたいという、発展的休止という意味での表現でございまして、ただいまのご意見も重々踏まえた意味で、また次年度に向けてはできるだけ拡大していけるように取り組んでまいります。

○委員 今回の資料は、先ほど説明がありましたとおり内部資料という位置づけでよろしいのですね。今回、本当に非常によく整理され

て、ここまで取りまとめていただいたということについては私も大変評価し、敬意を表したいと思います。

この1枚目に書いてある(2)の25年度から27年度までの達成状況と今後の方向性と、達成状況はどこで見られるのでしょうか。これを見る限り、27年度の成果と課題というのは出ていますけれども、この2の(2)というのはどこで読むのでしょうか。

○説明員 2の(2)の25年度から27年度までの達成状況ですけれども、これは具体的には先ほどご説明した達成状況の5段階の評価、これを行うに当たって、例年ですと、その年度の取組状況だけを調査票にも記載していただいていたのですが、改定の時期も迎えるということで、25年度から27年度までの全体を踏まえて、この達成状況の評価をそれぞれで行ってくださいという形で、今回調査をしてございます。

したがって、達成状況の5段階のランクづけの中にはそれが含まれているのですけれども、具体的にこの資料を見たときの改善策ですとか現況ですとかいった中のどこにそれが表記されているかというところ、そこまでには至っていないつもりになってございます。

○委員 全体的なことになると思うのですけれども、めぐろ学校教育プランの改定に役立たせるという意味合いもあって調査したわけですので、全体を見通して、これは現行のめぐろ学校教育プランに基づいた達成状況です。次の教育プランというのは、今後これらをもとに検証していくのでしょうかけれども、新たな課題が見えてきているというところがあれば、そういうのも見せていただくということも必要なのかなというふうに思います。先ほど15、16ページの健康教育のところは今回新たに保健給食・健康係という新しい係をつくるのであって、先ほど学校運営課長からも話があったとおり、休止というところの文字だけ捉えますので、発展的解消だと思います。改善策が見えているわけですから、28年度の取り組みとして書かれておりますので、この事業は確かに休止だけでも、今後に向けては方向性としては、やはり改善だと思います。修正できるのであれば、修正を加えたほうがいいと思います。

○説明員 28年度までの計画期間ですので、28年度に改定作業を予定してございます。今回調査をしまして、継続、あるいは拡大になっているものを中心に、また検討していく形になろうかと思いま

すけれども、一方で学習指導要領の改訂も予定されていまして、もし28年度に実際にめぐろ学校教育プランを改定して、29年度からまた同じように4年間だとすると、29、30、31、32と、その間には学習指導要領も改訂されてくるというようなこともございますので、その学習指導要領の内容も見ながら、部分改訂をするのがいいのか、29年度については延期をしていく形がいいのか、新しく出てくるような課題も踏まえて、なるべく早い時期に方向性を決めた上で、改定作業を行うのか、行わないのかも決めまして進めていきたいと考えてございます。

それから、2点目の区分の修正でございますが、今ご指摘があった部分以外にも類似した部分もございますので、改めて見直しをさせていただいて、修正もできますので、修正をした上で活用していきたいと考えてございます。

○委員長

この件についてご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

以上で本日の定例会を閉会します。

(午前11時51分閉会)